

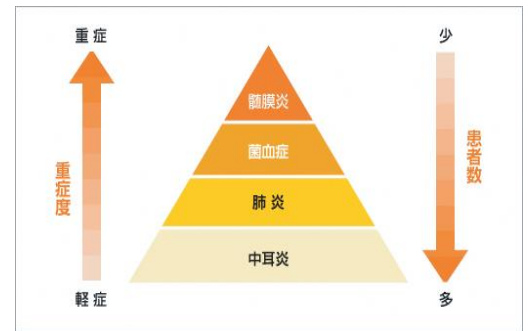
# 小児用肺炎球菌ワクチン(対象年齢：生後2月以上生後60月に至るまで)

(標準：初回接種開始は生後2月から生後7月に至るまで)

肺炎球菌は、細菌による子どもの感染症の二大原因のひとつです。ヒブと同様、表面に莢膜を持つ病原性の高い莢膜株と、莢膜を持たない病原性の弱い無莢膜株があります。莢膜を持つ肺炎球菌は、細菌性髄膜炎、敗血症、肺炎気管支炎、中耳炎、副鼻腔炎、細菌性関節炎などのさまざまな感染症を引き起こしますが、これらの感染症を発症するのはお母さんからもらった移行抗体が低下する、2月齢から5歳未満の免疫が未熟な乳幼児です。








## 病気の説明

子どもの多くが鼻の奥にこの肺炎球菌を保菌しており、それ自体は問題はありません。しかし、小さな子どもは肺炎球菌に対する抵抗力をもっていないため、比較的簡単に感染してしまいます。耳で感染を起こすと、中耳炎に、肺に入り込むと肺炎に、脳や脊髄を覆っている髄膜の中に入り込むと細菌性髄膜炎を発症します。



## 接種時期と回数

接種開始時期は、お母さんからもらった移行抗体が低下する2月齢からが望ましいですが、初回接種の開始時の月齢ごとに以下のとおりとなります。

|      | 初回接種（生後12月に至るまでの間）  | 追加接種  |     |
|------|---|---|-----|
| 標準   | 生後2月から生後7月に至るまで<br>              | 初回接種終了後60日以上あけ<br>生後12月から15月に至るまでの間に1回接種<br> | 計4回 |
| 標準以外 | <p><b>！注意：</b>初回2回目、3回目の接種は生後24月に至るまでに行うこととし、これを超えた場合は接種しません。また初回2回目の接種が生後12月を超えた場合、初回3回目の接種はしません。（どちらも追加接種は可能）</p> |   |     |
|      | 生後7月から生後12月に至るまで<br>             | 初回接種終了後60日以上あけ<br>生後12月以降に1回接種<br>           | 計3回 |
|      | 生後12月から生後24月<br>                 | 初回接種終了後60日以上あけ<br>1回接種<br>                   | 計2回 |
|      | 生後24月から生後60月<br>               | 計1回   |     |

※接種間隔：27日以上

## 副反応と注意点

副反応としては、接種部位の紅斑、腫脹（はれ）、硬結（しこり）、疼痛・圧痛があります。全身反応として、発熱、易刺激性などが認められています。

※法で定められた期間内に接種されない場合は、自己負担となりますのでご注意ください。